

氏名	大 月 洋
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1047 号
学位授与の日付	昭和54年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	抑制暗点の研究 第 1 報：内斜視対応異常例について 第 2 報：微小斜視, small angle esotropia および不同視性弱視について 第 3 報：微小斜視について
論文審査委員	教授 中山 沃 教授 小倉 義郎 教授 西本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

著者は日常視に最も近似した条件下で斜視および弱視患者の感覚状態を把握するために Au-Ihorn 位相差ハプロスコプを用いて、抑制暗点を中心に研究をおこなった。

網膜対応が異常と診断された内斜視では対応異常の種類に関係なく斜視眼網膜の道づれ領を中心に円形の暗点を検出した。これは Panum 融像域の拡大によって、固視眼と対応する斜視眼網膜が点としてではなく、1つの領域として対応しこの領域が暗点として検出されたものと考察した。

片眼に弱視をみとめる不同視眼、偏位度が 5° 以内の微小内斜視そして偏位度が $5^{\circ}\sim 12^{\circ}$ の内斜視を対象にして抑制暗点を検討した。微小斜視では、弱視眼の中心窩から道づれ領がひとつのまとまりとして検出され、またスクリーン上に認識された暗点の固視点からの偏位度から周辺網膜の対応は正常と推察した。

微小斜視の感覚状態を検討するために解析の容易な中心固視例を対象にして周辺網膜の対応状態をしらべたところ、スクリーン上に認識された暗点の固視点からの隔りが偏位度におおむね一致していたことから周辺網膜の対応は正常と結論した。つまり微小斜視のごとく、わずかな眼位ずれであれば、網膜対応は Panum 融像域の拡大によって厳密な網膜対応変換が生じることなく、正常のままの感覚で適応する可能性が強いと考察した。また、微小斜視の融像機序を検討した結果、周辺融像下の中心部では、抑制が軽度の場合、異常運動よりも異常感覚に基盤をおいた融像、つまり異常角の連続的な変化によって融像が生じることをみとめた。

論文審査の結果の要旨

本研究は内斜視，微小内斜視，不同視性弱視の患者に，はじめてAulhorn 位相差ハプロスコープを応用し，抑制暗点検出に成功し，融像機序について新しい考え方を提唱した。この検出方法は全く新しい方法であり，その研究成果もすぐれており，価値ある業績であることを認める。

よって，本研究は医学博士の学位を得る資格があると認める。